



# HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	原因・理由を表す「ため」と「によって」
Author(s)	池上, 素子; Ikegami, Motoko
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 11, 19-38
Issue Date	2008-03
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/45674">https://hdl.handle.net/2115/45674</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	BISC011_007.pdf



## 原因・理由を表す「ため」と「によって」

池 上 素 子

### 要 旨

本稿では、原因・理由を表す「ため」と「によって」を比較検討し、その共通点と相違点を考察した。その結果、以下の知見が得られた。

- 1) 両者の共通点としては、「ため」と同様「によって」も「か/と」を用いて選択的あるいは複数の原因・理由を示すことができること、いくつかの助詞が後接できることが挙げられる。ただし、全く同じ助詞が後接できるわけではない。
- 2) 両者の相違点としては以下の6点が挙げられる。
  - a) 「によって」は契機的な因果関係を表すことができるが、「ため」は表しにくい。
  - b) 「によって」は前件の出来事が後件に直接働きかけるような文脈でないと使いにくい。が、「ため」には特にそのような制約はない。
  - c) 「によって」は事実的か仮定的かが曖昧な表現である。これに対して、「ため」はあくまでも事実的であることを前提とする。
  - d) 「ため」はよくないことに使われる傾向があるが、「によって」には特にプラスマイナスどちらかに偏る傾向は認められない。
  - e) 「ため」と「によって」では後者の方が従属度が高い。
  - f) 過去の事態を表す場合、「ため」節では習慣的な事柄にのみル形が現れうるが、「によって」節では一回性の出来事にも習慣的な事柄にもル形が現れうる。

〔キーワード〕原因・理由、契機的、事実的、仮定的、従属度

## 1. はじめに

### 1.1 目的

原因・理由を表す「ため(に)」「によって/により」は論文等硬い文章ではよく用いられる表現である。筆者は、レポート作成のための予備教育

としての作文教育に生かすため、池上(2004)で「ため(に)」の、池上(2005)で「によって/により」の学術論文コーパスにおける現れ方を調査した。しかしこれらは、それぞれの使用実態を明らかにしたものであり、両者を関連づけたものではない。また、先行研究を見ても、両者を比較して考察したものはほとんどない。本研究は、両者を比較検討することによって、原因・理由を表す「ため(に)」と「によって/により」が持つ性質、特徴をさらに精査し、各々の用法の明確化を図ることを目的としている。

なお、「ため」と「ために」、「によって」と「により」には若干の違いがあるが、概ね同等の働きをするものと見なし、以下では原則として「ため」、「によって」で記述する。例文の出典が「ために」、「により」となっている場合はそのまま引用するが、特に断りがない限り、それらは「ため」、「によって」と言い換えられると解釈する。「ために」、「により」に独自の特徴が見られる場合や、先行研究において各々を区別している点について言及する場合は、その都度その旨記述することとする。

## 1.2 考察の対象

ここで、本稿が考察の対象とする「ため」と「によって」を明確にしておく。

まず「ため」には、「目的」、「原因・理由」、「利益」という用法がある<sup>1)</sup>。(以下、例文文末の( )は出典を表し、下線は特に断りがない限り全て引用者による。出典のないものは筆者の作例である。(1)~(3)は出典の後ろに用法を記す)。

- (1) 試合を見るため会場に足を運ぶ、というほどの熱心さはなかった。  
(一瞬)(目的)
- (2) ときに美濃は長良川の連年の氾濫と冷害、虫害などのため不作がつづき、端境期などには地侍でさえ食うにこまるほどであった。  
(国盗り)(原因・理由)
- (3) 賃仕事どころか、あんたのためならあたしは、よろこんで身売りだてたのに。(さぶ)(利益)

原因・理由用法はさらに、a) 客観的な事実の原因を表すもの、b) 意志的行為の理由を表すもの、c) 推量や判断の根拠を表すもの、の3つに下

位分類できる。a) の場合、前件も後件も主体の意志とは無関係な客観的事実であり、前件は後件の事態発生の源となっている。b) の場合、後件には主体の意志的行為が示され、前件は後件でそのような行為を行う理由を表す。c) の場合、後件は主体の判断や推量を示し、前件はそのような判断、推量を行った根拠、論拠を表している。(2)は a) の、(4)、(5)はそれぞれ b) ・ c) の例である。本稿が考察対象とする「ため」は、これら a) ~ c) 全てを含む原因・理由用法のものである<sup>2)</sup>。

- (4) 研究課長のつよい要求があったため、わざと課長や部長を無視したのだった。(パニック)
- (5) 資金不足のため、工事は中止されるだろう (蓮沼他 (2001))

次に「によって」には、「原因・理由」、「受身文の動作主」、「手段」、「拠り所」、「場合」という5つの用法がある<sup>3)</sup>。(6)~(10)の出典の後ろに用法を記す。

- (6) しかし、その二月上旬のある夜、台湾製薬の工場は原因不明の火災によって焼失してしまった。(人民) (原因・理由)
- (7) 奥さんもまた出来るだけ私によって慰さめられたそうに見えた。  
(こころ) (受身文の動作主)
- (8) もちろん私小説と違って事実そのままではないが、より深い原体験をフィクショナルな方法により表現している。(人間) (手段)
- (9) 日本語の数詞は倍数法によって成り立つと言われている。  
(野村 (1984)) (拠り所)
- (10) そういう場合にぬすんだ物をどう始末するかは、人によって違うんじゃないか。(さぶ) (場合)

「によって」の原因・理由用法には、客観的な事実の原因を表すものと、意志的行為の理由を表すものがある。(6)は前者の、(11)は後者の例である。「によって」には「ため」と違い、判断の根拠を表す用法は認められない<sup>4)</sup>。また筆者が見た限りでは、「によって」に判断の根拠の用法を認めた文献はない。

- (11) 思いも寄らぬ突然の出来事によってあなたは私から去って行き、それから一年もたたないうちに…。(錦繡)

本稿が考察対象とする「によって」は、(6)、(11)のような原因・理由用法のものである。さらに受身文のうち、(12)のように前件が後件の原因・理由を表していると解釈されるものについても対象としている。

- (12) 爆撃によって多くの民間人が殺された。

## 2. 「ため」と「によって」に関する先行研究

「ため」と「によって」の両方を比較した研究は管見では廣田(1997)しかない。ここでは、各々について別個に研究したのものも合わせて、「ため」と「によって」の共通点と相違点について、これまで言及されている主な点を整理する(以下、明らかに不自然で成立しない例文に\*を、不自然さを伴い成立が困難であると判断される例文に?を付す。また、出典のある例文において?・\*が付してある語は、特に断りがない限り引用者による加筆である。例えば、(28)の場合、原文は「ために」を用いており、「?ため」の部分は引用者の加筆である)。

### 2.1 共通点に関する先行研究

まず、両者の共通点についてこれまでに言及されている点を挙げる。第一に、「ため」も「によって」も、客観的な事実の原因に用いられるのが典型的な用法であることが各々指摘されている。「ため」に関しては、今尾(1991)、蓮沼他(2001)、田中(2004)等に言及がある。例えば今尾(1991)は下のような例を挙げ、「主観的要素が含まれると使用不可能な客観的接続形式」としている((13)の\*は今尾による)。

- (13) 映画の切符が2枚ありますので (から/\*ため)、一緒に行きませんか。(今尾(1991))

また蓮沼他(2001)にも「タメニの後には、普通、意志や命令・禁止・依頼・勧誘などの働きかけの表現を用いることができない」とある。これらのモダリティ要素が共起しにくいことから、意志的行為の理由は「ため」

の典型的な用法ではないと言える。

「ため」の根拠の用法については、庵他 (2001)、蓮沼他 (2001) 等に記述がある。例えば蓮沼他は「ために」の項目で『判断の根拠』を表す用法では、ほとんどの場合、カラ、ノデが使われる」と述べ、判断の根拠は「ため」の典型的な用法ではないことを示唆している。

一方「によって」に関しては池上 (2005) で学術論文における現れ方を調査した結果、意志的行為の理由に用いられることは少ないことが明らかになっている (前述したように、「によって」には判断の根拠を表す用法はない)。

第二に、「ため」も「によって」も書き言葉として用いられる表現であることが各々指摘されている。「ため」に関しては蓮沼他 (2001)、田中 (2004) 等に記述がある。また、「によって」に関しては、市川 (2007)、東京外国語大学留学生センターグループKANAME (2007) 等に記述がある。

## 2.2 相違点に関する先行研究

次に、「ため」と「によって」の相違点に関する先行研究を整理しておく。第一に、「によって」は前後に状態を表す語は来にくい、「ため」にはそのような制約はないことが指摘されている。例えば廣田 (1997) は、従属節における「ため」と「によって」の違いとして、「ため」では「動詞、形容詞、名詞のいずれも用いられる」が、「によって」では「状態を表す述語は用いられない」としている。また主節に関しても、「ため」の主節には現在の状態を表す述語を用いることができるが、「によって」の場合用いられにくいとしている。つまり、(14)のような文では「によって」より「ため」の方が使いやすいということである。

- (14) 東京は物価が高い {ため / ? ことによって} 住みにくい。

「によって」のこのような制約に関しては、他に石島 (2001)、池上 (2005) 等に指摘がある。

これに関連して、「によって」は、(15)のように前件にも後件にも出来事が置かれ、「動因としての事柄によって事柄が生起する」(野村 (1984)) というパターンで現れることが典型的であることが明らかになっている (西本 (2001)、池上 (2005) 等)。

(15) 内戦によって周辺諸国から都が孤立し、(野村 (1984))

これに対し、「ため」には特に現れやすいパターンは見あたらないということが池上 (2004) で指摘されている。

第二に、廣田 (1997) は、前件に名詞を用いる場合、「ため」は目的と解釈されやすい名詞が使いにくいという制約があるが、「によって」には目的用法がないため、そのような制約がないことを指摘している (16の下線および?は廣田による)。

(16) 医療の発達 によって / のため、日本人の平均寿命は飛躍的に伸びた。(廣田 (1997))

ここまで、「ため」と「によって」の共通点と相違点に関する先行研究を整理してきた。以下では、これらの成果を踏まえた上で、これまで指摘されてこなかった両者の共通点と相違点について考察していく。

### 3. 「ため」と「によって」の共通点

本章では「ため」と「によって」の共通点について考える。

田中 (2004) は「ため」について、(17)、(18)のように「か/と」を用いて選択的あるいは複数の原因を示すことができると述べている。

(17) 事故があったか、忘れていたために、時間に遅れたものと思われる。  
(田中 (2004))

(18) 頭が痛かったのと熱があったために、会社を休んだ。(同上)

田中は「によって」については触れていないが、下のように「によって」の場合もそれらが可能である。

(19) 細胞そのものが凍結するか、あるいは細胞壁が凍結することによって枯死する。

(20) 動作が高速化したことと低価格化が進んだことによって、ADSLは急速に普及した。

また、田中 (2004) は「ため」について、「ためにか」という形はないが、「ためか」という形で推量を表すことができるとしている。「によって」の場合、「により」にはできないが「によって」は「か」をつけて推量を表すことができる。

- (21) カルロは過食によってか、あるいは父フィリーペがエリザベッタとの不貞を疑って毒殺したかによって23歳で死ぬ。(いま)

このように、「によって」は選択的あるいは複数の原因・理由を示すことができること、助詞「か」をつけて推量を表せる点において「ため」と共通している。

両者に後接することができる助詞は「か」だけではない。下のように「なら」や「も」もつけることができる。

- (22) 遅刻したのが事故のためならやむを得ないが、個人的な理由の場合  
は減点する。  
(23) 隕石や小惑星との衝突によってならともかく、ヒトが作ったものによ  
って地球上にクレーターができるようなことがあってはならない  
…。(ミルク)  
(24) 彼女がまたどこかへ行ってしまいそうな気がしたためもあり、  
(エディ)  
(25) 石はもちろん、粘土でさえ飛ばさないような微風によっても、砂はいっ  
たん空中に吸い上げられ、… (砂の女)

このように、いくつかの助詞が後接できるという点で両者は共通しているが、全く同じ助詞が後接できるわけではない。例えば「によって」には「は」が後接しうるが、「ため」にはできない。

- (26) この物質は湿度によってのみ変色し、温度によっては変色しない。  
(27)\*地震のため大きな被害が出たが、津波のためは被害は出なかった。

また、(28)のように「ために」にはつきやすいが「ため」にはつきにくい助詞があったり、「によって」には助詞が後接するが「により」には全く後

接しない等、助詞の後接に関する振る舞いは複雑である。上述の「は」に関して、(29)のような利益、(30)のような目的を表す「ために」には後接できる（原因・理由用法では「ために」でも後接できない）。

- (28) 女の人って相手の欠点の ために / ? ため さえ、男を愛するもの  
だって、いつか聞いたことがありますけど。(アンナ)
- (29) そんなことをしても、彼のためにはならない。
- (30) うちが生き残るためには、こうするしか手がないんだ。(女社長)

#### 4. 「ため」と「によって」の相違点

##### 4.1 意味的な違い

###### 4.1.1 契機的因果関係

本章では両者の相違点について、意味的な面と統語的な面から考察する。4.1では、意味的な面における相違点について検討していく。本節ではまず、「によって」では表せるが、「ため」では表しにくい因果関係について考える。

坂原 (1985) によると、原因・理由文は、知識や経験、常識に支えられた「PならばQ」という条件文を基底に持ち、P（またはPとQ）が真である場合成立するものである。例えば坂原は、(31a)が知識としてある時に、前件の真が確認されるなら(31b)の原因・理由文になり、さらに後件の真が確認されるなら(31c)となると述べている。

- (31a) コーヒーを飲めば、眠れないぞ。(坂原 (1985))
- (31b) コーヒーを飲んだから、眠れないぞ。(同上)
- (31c) コーヒーを飲んだから、眠れなかったのだ。(同上)

しかし、(32)、(33)のように、「によって」が表す原因・理由文には、必ずしもその前提となる条件文が考えられないものがある。そしてこのような場合、「ため」は使いにくい。

- (32) 松村みね子の一家が訪れた ことによって / ? ため、その息子の  
吉村鉄太郎と友情を結び、その娘の宗瑛に愛情を感じるに至った。  
(風)

- (33) 丸山真男の永眠 {によって/?のため}、(中略) 日本の「戦後民主主義」の意味が改めて問われているからであろう。(社会)

これらの文には、下のように、前提となる条件文が考えにくい。

- (32)? 松村みね子の一家が訪れれば、その息子の吉村鉄太郎と友情を結び、その娘の宗瑛に愛情を感じる。  
(33)? 丸山真雄が永眠すれば、日本の「戦後民主主義」の意味が改めて問われるだろう。

通常、原因・理由文は、「PならばQ」という前提が話し手にあり、現実にはP（またはPとQ）が成立した時、その前提に基づいて考えればQという事態が結果として生じる（または生じた）のは自然なことだという意識の下に使われる。その意味で原因・理由と結果の結びつきには必然性がある。しかし、(32)、(33)のような場合、「PならばQ」という前提が考えにくく、原因・理由と結果の結びつきに必然性が薄い。言い方を変えれば、(32)、(33)における前件と後件の関係は偶発的なものであって、話し手が論理的に条件付けられる関係ではない。前件は、後件の出来事発生、いわば「契機」、「きっかけ」、「引き金」とでも言うべきものである。このような契機的な因果関係を表す場合、「によって」は使うことができるが、「ため」は使いにくい。

#### 4.1.2 使いやすい文脈、使いにくい文脈

池上（2005）で明らかにしたように、「によって」は基本的に、何らかの出来事や変化の生起が動因となって何らかの出来事や変化が起きることを表す表現である。そのため、前件の出来事が後件に直接働きかけるような文脈、具体的には、「PによってQ」は、「PがQさせる」と言い換えられる文でないと使いにくい。例えば(34a)は、(34b)で言い換えることができる。

- (34a) その勤の鋭さによってこの男は命びろいをしたといえる。  
(エディ)

- (34b) その勤の鋭さが、この男を命びろいさせたといえる。

しかし、(35a)は(35b)とは言い換えられず、「によって」は使いにくい。

(35a) ゲームソフトは対応するハードでのみ動作する |ため/？こと  
によって|、ハードの浸透がソフトの売り上げに直結する<sup>5)</sup>。

(田中 (2004))

(35b) \*ゲームソフトが対応するハードでのみ動作することが、ハード  
の浸透をソフトの売り上げに直結させる。

このように、ある事態発生に与える間接的な影響を表す場合、言い換えれば、事態発生の背景説明を行うような場合「によって」は使いにくい。しかし、「ため」の場合、このような文脈でも用いることができる。

#### 4.1.3 事実的、仮定的

筆者は池上 (2005) において、「によって」には「ば、と」等で言い換えられる条件文的用法があることを指摘した。以下では、同論文と同様、(36)のような、前件が名詞節である文を「ことによって」が接続助詞のように働く複文構造として捉えることができるとする松田 (1986)、さらに、それが(37)のような名詞句レベルにおいても拡張しているとする西本 (2001) と同じ立場で議論を進める。

(36) それでは、このN I Iが確立、適用される|こと|によって/ \*ため|、  
どのようなベネフィットがもたらされるのであろうか？ (社会)

(37) ここでは、一回の故障 |によって/ \*のため| 一つのプロセッサが  
利用不能になるとし、瞬時に再構成し実行継続すると仮定する。

(工学)

(36)・(37)はいずれも未確定の事実を結びつけている文であり、「一回故障すると/すれば」、「適用されると/されれば」と、条件表現で言い換えられるものである。この点で、「によって」は仮定的な事柄を表すことが可能な表現であると言える。しかし「ため」には、このような条件文的な用法はない。

ただし、池上 (2005) にも述べたが、このような「によって」が用いられるのは、確定はしていないが、当該出来事が起きることが充分見込まれ

ている場合に限られ、起きる見込みが低い、あるいは未知の(38)のような場合、「によって」を使うと不自然である。

- (38) 今、マグニチュード7クラスの大地震が発生 すれば / \* することによって、この地域の約半数の家屋が倒壊すると予想される。

このように、「によって」は未確定の場合にも用いられることがあり、その意味で条件的であると言えるが、当該出来事が起きることが見込まれている場合に限られるという制約から考えると、「ば、と」等の条件表現と同じであるとは言えない。

また、(36)、(37)は「ば、と」で言い換えられ、意味が曖昧になることはないが、(39)のような一般法則や習慣的事柄の場合、あるいは(40)のように未来のことでも起きることが確定しているとの解釈が可能な文の場合、「ば」または「と」で言い換えることも、「ため」で言い換えることも可能であり、このような文で「によって」を用いると意味が曖昧になる。

- (39) 太平洋側のプレートが日本海側のプレートにめり込む と / こと によって / ため 地震が発生する。
- (40) 来年学生が 増えれば / 増えること によって / 増えるため、増収が見込まれる。

これらのことから、「によって」は事実的か仮定的かが曖昧な表現であると言える。

これに対して、「ため」はあくまでも事実的であることを前提とする。未来の事柄の場合、当該出来事が発生することが確定していなければ使えない。逆に言えば、確定さえしていれば、例えば、

- (41) 来年学生が増える ため / \* こと によって、教室の拡張工事が行われた。

のように、あたかも原因・理由と結果の時間的順序が反対であるかのような文でも使うことが可能である。(41)は、学生が増えることがすでにわかっている、あるいは決まっていることを前提とした言い方であり、わかった

時点を基準とすれば、原因・理由と結果の時間的順序は反対ではない。「によって」にはこのような使い方はない。

#### 4.1.4 「ため」と「によって」が表す原因・理由の意味内容

本節では、「ため」と「によって」が表す原因・理由の意味内容に関する違いについて考察する。「ため」については、(42)のようによくないことの原因・理由に使われることが多いという指摘がなされている（市川（1997）、廣田（1997）、田中（2004）等）。管見では「によって」に言及した研究はない。

- (42) この女の子は、最もつらい境遇で生まれたために、はじめての子の場合の百分の一も心遣いが払われなかった。（アンナ）

本稿では、市川らの「ため」に関する指摘が妥当か、また「によって」に関して何らかの傾向があるかを調べるため、『CD-ROM版 新潮の100冊』を取り上げ、調査を行った。調査の方法は、同資料から「ため」と「によって」を含む文を取り出し、そこから原因・理由用法の「ため」と「によって」を前後関係から判断して抽出し、それらが表す原因・理由を「原因」「理由」「根拠」に下位分類した上で、意味内容別に数を数えるというものである。抽出した「ため」「によって」の総数はそれぞれ「ため」が9739、「によって」が2697であった。このうち「によって」の原因・理由用法が891であったため、概ね数を揃えるため、「ため」についてはランダムに1102抽出して分析を行った。調査の結果は表1、2の通りである。「中立」は両者が表す原因・理由が中立的な事柄でプラスマイナスが感じられないことを示している。（ ）内の数字は原因・理由用法の「ため」1102、「によって」891に占める割合である。

表1 「ため」が表す原因・理由の意味内容

	よ い	悪 い	中 立	合 計
原 因	126(11.4%)	530(48.1%)	245(22.2%)	901(81.8%)
理 由	17 (1.5%)	76 (6.9%)	94 (8.5%)	187 (17%)
根 拠	0 (0%)	7 (0.6%)	7 (0.6%)	14 (1.3%)
合 計	143 (13%)	613(55.6%)	346(31.4%)	1102 (100%)

表2 「によって」が表す原因・理由の意味内容

	よ い	悪 い	中 立	合 計
原 因	243(27.3%)	239(26.8%)	311(34.9%)	793 (89%)
理 由	14 (1.6%)	16 (1.8%)	68 (7.6%)	98 (11%)
合 計	257(28.8%)	255(28.6%)	379(42.5%)	891(100%)

表1にあるように、確かに「ため」が表す原因・理由はよくないことが多いことがわかる。全体の半数以上を「悪い」が占めており、「よい」は13%に過ぎない。これに対し、「によって」は、「よい」と「悪い」の割合が拮抗しており、最も多いのは「中立」となっていて、特にプラス・マイナスどちらかの方が使いやすいという傾向は認められない。

以上のことから、「ため」は概ねよくないことに使われる傾向があるが、「によって」には特によいこと、あるいは悪いことに使われるといった傾向は見られないという違いがあると言える。

なお、3.で、先行研究において「ため」と「によって」に共通して指摘されている点として、両者とも客観的事実の原因を表すことが典型的な用法であることを述べたが、この調査の結果からも、従来の指摘が妥当なものであることが確かめられる。すなわち、表1、2にあるように、「ため」も「によって」も、原因用法が80%以上を占めており、理由や根拠の割合はかなり低い。

## 4.2 統語的な違い

### 4.2.1 従属度

4.1では、「ため」と「によって」の意味的な違いについて考察した。4.2では、統語的な違いについて考察する。本節では、まず、両者の従属度の違いに注目し、「によって」の方が「ため」よりも従属度が高いことを論ずる。「によって」の方が従属度が高いとする根拠としては、1)「によって」は「ため」節の中に入りうるが、その逆はしにくいこと、2)「ため」節には助詞「は」が生起しうるが、「によって」節にはできないこと、3)「ため」節には「です・ます体」が生起しうるが、「によって」節ではしにくいこと、の三点が挙げられる。(43a)(43b)は1)の、(44)は2)の、(45)は3)の例である。

(43a) 台風の直撃を受けたことによって大部分が落果したため収穫量が大幅に減少した。

(43b) ?台風の直撃を受けたため大部分が落果したことによって収穫量が大幅に減少した。

(44) しかし、この製品開発は失敗に終わったため/\*ことによって、経営状況はさらに悪化した。

(45) ハードウェアに障害が発生しましたため/\*ことによって、サーバーが正常に動作しなくなりました。

このように、「ため」と「によって」では後者の方が従属度が高いと言える<sup>6)</sup>。原因・理由用法の「によって」は接続助詞的な働きをされると考えられるが、このような従属度の高さは、複合格助詞ゆえの格助詞的な性格も残していることを示していると思われる。

#### 4.2.2 節内に現れる述語の形

本節では、「ため」と「によって」の統語的な違いの二つ目として、過去の事態を表す場合の「ため」節、「によって」節に現れる述語の形について考える。

寺村 (1984) は「ため」について、『原因』を表す『タメニ』と結びつく P (引用者注: 「タメニ」節のこと) は、意志動詞でも非意志動詞でも、形容詞でもよい。だいたい、～テイル形や過去形のことが多いが、意志動詞は基本形は使えないと言ってよいだろう」と述べ、下の例を挙げている。(46)は意志動詞の、(47)は無意志動詞の例である。(46)の\*は寺村による。

(46) \*彼があまり本を買うために、食費を切りつめねばならなかった。

(寺村 (1984))

(47) あまり本代がかさむために、奥さんから文句が出た。(同上)

しかし、意志動詞でも、習慣的な事柄の場合、必ずしもル形 (寺村では基本形) が使えないとは言えない。(48)は一回性の出来事の、(49)は習慣的な事柄の例である。

(48) 昨日、彼が店の前に車を{\*止める/止めたため、店から苦情を

言われた。

- (49) 彼がいつも店の前に車を |止める / 止めた| ため、店から苦情を言われた。

寺村の(46)の例は習慣的な事柄と解釈され、この場合、確かに不自然に感じられる。しかし、この例も下のように「妻は」等を入れれば許容度が上がるように思われ、必ずしも意志動詞であることが不自然さの原因とは言い切れないのではないか。

- (46) 彼があまり本を買うために、妻は食費を切りつめねばならなかった。

また、寺村は特に触れていないが、無意志動詞の場合も、(50)のような一回性の出来事ではル形は使いにくい(50の?は寺村による)、(51)のような習慣的な事柄の場合、ル形が許容されると思われる。

- (50) ?雨が降る } ために、タクシーがなかなか見つからなかった。  
降っている } (寺村 (1984))  
降っていた }

- (51) 毎年この時期に川が氾濫するため、今年新たに堤防が作られた。

一方、「によって」の場合、一回性の出来事でも習慣的な事柄でも、また意志動詞でも無意志動詞でも、ル形が現れうる。

- (52) それはスナックで中村氏と一緒に話し、一夜を飲みあかすことにより生れてきた。(二十歳) (意志・一回性)

- (53) そこで、彼は人にいわれるままに動いていたが、彼はそうすることによって、かえって幸福感を味わうのだった。

(アンナ) (意志・習慣的)

- (54) この幸福は、盲目になることによって購われたとさえ思えるほどである。(華岡) (無意志・一回性)

- (55) 部屋に孤立していても、頭の中はいつも父と栄子との気配を感じることによって、刺戟されていた。(青春) (無意志・習慣的)

このように、過去の事態を表す場合、「ため」節では習慣的な事柄にのみル形が現れうるが、「によって」節では一回性の出来事にも習慣的な事柄にもル形が現れうると言える。

## 5. 終わりに

以上、本稿では原因・理由用法の「ため」と「によって」を比較検討することによって、両者の特徴をさらに精査し、用法の明確化を図ることを試みた。その結果、以下の知見が得られた。

- 1) 両者の共通点としては、「ため」と同様「によって」も「か/と」を用いて選択的あるいは複数の原因・理由を示すことができること、また、いくつかの助詞が後接できることが挙げられる。ただし、全く同じ助詞が後接できるわけではない。
- 2) 両者の相違点としては以下の6点を指摘した。a) ~ d) は意味的な面における、e)、f) は統語的な面における相違点である。
  - a) 「によって」は契機的な因果関係を表すことができるが、「ため」は表しにくい。
  - b) 「PによってQ」は前件の出来事が後件に直接働きかけるような文脈、すなわち「PがQさせる」と言い換えられる文でないと思にくい。言い換えれば、ある事態発生の背景説明を行う場合、「ため」は使えるが「によって」は思にくい。
  - c) 「によって」は事実的か仮定的かが曖昧な表現である。これに対して、「ため」はあくまでも事実的であることを前提とする。
  - d) 「ため」は概ねよくないことに使われる傾向があるが、「によって」には特によいこと、あるいは悪いことに使われるといった傾向は見られない。
  - e) 「ため」と「によって」では後者の方が従属度が高い。
  - f) 過去の事態を表す場合、「ため」節では習慣的な事柄にのみル形が現れうるが、「によって」節では一回性の出来事にも習慣的な事柄にもル形が現れうる。

これらの知見は両者の用法をより精細に明らかにしていく上で意義があると考えられる。しかし、「名詞+のため/によって」という形を取った場合の名詞の制約に関して先行研究以上の考察を行うことができなかつた等課題も残されており、今後さらに考察を深める必要がある。

注：

- 1) 「ため」の用法の区分には、(3)のように、後件が意志動詞であるものは「目的」に分類し、「利益」には「あんな奴は社会のためにならない」のようなもののみを入れる立場（森田（1980）等）と、(3)のようなものも「利益」に入れる立場（グループ・ジャマシイ編著（1998）等）がある。本稿は後者の立場で分類している。
- 2) 本稿では、a)～c) 全般について言及する場合、原因・理由と記述する（「によって」についてはa)とb)）。個々の用法に該当する点に言及する場合は、当該用法のみを記載する。ただし、先行研究を引用した場合は、その著者が用いている用語に従う。
- 3) グループ・ジャマシイ編著（1998）『日本語文型辞典』による。
- 4) 「によって」には「拠り所」（『日本語文型辞典』等）と呼ばれる用法があるが、これは「法によって裁く」のような、抽象名詞について「～に基づいて、～にしたがって」という意味を表す用法であって、(5)のように直接具体的な原因を根拠に結果を推量する用法ではない。
- 5) 提題の「は」は「によって」節には現れない。田中（2004）のこの例文を「によって」に当てはめると不自然になる理由の一つに、「は」が含まれていることは否定できない。しかし、たとえこの「は」を「が」に変えたとしても、やはり不自然であると考えられる。
- 6) 「ため」と「ために」では「ために」の方が従属度が高い（詳しくは池上（2004）をご覧ください）。しかし、「ために」の場合でも「によって」との関係は変わらないと考える。

参考文献：

- 庵 功雄・高梨信乃・中西久美子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための 日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 池上素子（2004）『「ため」と『ために』—農学系論文コーパスの分析から—』『北海道大学留学生センター紀要』第8号 pp.14～27
- 池上素子（2005）「原因を表す『によって／により』—学術論文コーパスにおける用いられ方—」『日本語教育』127号 pp.21～30
- 石島満沙子（2001）「日韓共同理工系学部留学生が使用する物理学教科書の分析—複合格助詞『～によって』について—」『北海道大学留学生センター紀要』第5号 pp.48～63

- 市川保子 (1997) 『日本語誤用例文小辞典』 凡人社  
 ー (2007) 『中級日本語文法と教え方のポイント』 スリーエーネット  
 トワーク
- 今尾ゆき子 (1991) 「カラ、ノデ、タメーその選択条件をめぐってー」 『日  
 本語学』 12月号 vol.10 pp.78～89
- グループ・ジャマシイ編著 (1998) 『日本語文型辞典』 くろしお出版
- 坂原 茂 (1985) 『認知科学選書 2 日常言語の推論』 東京大学出版会
- 田中 寛 (2004) 『日本語複文表現の研究 接続と叙述の構造』 白帝社
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』 くろしお出版
- 東京外国語大学留学生センターグループKANAME (2007) 『複合助詞  
 がこれでわかる』 ひつじ書房
- 西本勝博 (2001) 「現代日本語のニヨッテの意味機能」 『岡大國文論稿』 第  
 29号 pp.22～30
- 野村剛史 (1984) 「～にとって／～において／～によって」 『日本語学』 10  
 月号 vol.3 pp.60～66
- 蓮沼昭子・有田節子・前田直子 (2001) 『日本語文法 セルフマスターシ  
 リーズ7 条件表現』 くろしお出版
- 廣田周子 (1997) 「原因・理由を表す『ため』と『によって』」 『文化外国  
 語専門学校日本語課程紀要』 12月 pp.37～45
- 松田剛史 (1986) 「受け身文の『によって』」 『大谷女子大國文』 第16号  
 pp.129～141
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語 2』 角川書店

#### 用例出典：

〈『CD-ROM版 新潮の100冊』より〉

アンナ：『アンナ・カレーニナ』（トルストイ著・木村浩訳）／一瞬：『一  
 瞬の夏』（沢木耕太郎）／エディ：『エディプスの恋人』（筒井康隆）／  
 女社長：『女社長に乾杯！』（赤川次郎）／風：『風立ちぬ・美しい村』  
 （堀 辰雄）／錦繡：『錦繡』（宮本 輝）／国盗り：『国盗り物語』（司  
 馬遼太郎）／ころろ：『ころろ』（夏目漱石）／さぶ：『さぶ』（山本周  
 五郎）／人民：『人民は弱し官吏は強し』（星新一）／砂の女：『砂の女』  
 （安部公房）／青春：『青春の蹉跎』（石川達三）／人間：『人間失格』  
 （太宰 治）／二十歳：『二十歳の原点』（高野悦子）／華岡：『華岡

青洲の妻』(有吉佐和子) / パニック: 『パニック・裸の王様』(開高健)

<ウェブサイトより> ( ( ) 内は最終アクセス日)

い ま…いまさらオペラ入門

<http://www5a.biglobe.ne.jp/~outfocus/verdi/verdi-world.htm>

(2007.11.11)

工 学…北陸先端科学大学院学位論文データベース

[http://www.jaist.ac.jp/library/thesisdb\\_html/index.html](http://www.jaist.ac.jp/library/thesisdb_html/index.html)

(2002.1.31)

社 会…法政大学大原社会問題研究所

<http://oohara.mt.tama.hosei.ac.jp/sp/etextlink.html>

(2002.1.31)

ミルク…関西外大情報処理概論「ミルククラウンを撮る」

[http://www.infonet.co.jp/ueyama/ip/promenade/milk\\_crown.html](http://www.infonet.co.jp/ueyama/ip/promenade/milk_crown.html)

(2007.11.11)

いけがみ もとこ (留学生センター非常勤講師)

## A study of *tame* and *ni yotte* expressing causes or reasons

IKEGAMI, Motoko

This paper examines the uses of *tame* and *ni yotte* expressing causes or reasons in Japanese through comparing the two. In this study, the following results were found:

- 1) The following points are common to *tame* and *ni yotte*: First, both of them are able to show optional or plural causes using *ka* or *to*. Second, some particles can be attached to *tame* and *ni yotte*.
- 2) They are different from each other in the following points:
  - a) *Ni yotte* can show an incitement, but *tame* cannot.
  - b) While *ni yotte* is not used for indirect causes, *tame* can be used in such a case.
  - c) *Ni yotte* is ambiguous whether it expresses actual things or hypothetical ones. However, *tame* is always used for actual things.
  - d) While *tame* is often used for bad things, *ni yotte* does not have such a tendency.
  - e) *Tame* has a character near sentences more than *ni yotte*.
  - f) *Ru*-forms in *tame*-clauses can be used for only habitual things in the past. However, *ni yotte* does not have such a tendency.